

税金とは

岩見沢市立清園中学校 二年 林 美結

税金とは何のためにあるのだろうか。

昨今の日本では、税金に関する政策についての議論がメディアで頻繁に取り上げられている。特に、最近行われた参議院選挙においては、消費税の廃止を公約とする党や、減税を主張する党など、多様な考えが見られた。

しかし、もし税金がなくなつたとしたらどうなるのだろうか。果たして日本の政治は成り立つのだろうか。こうした背景から、現在の日本の税金の使い道について考察することにした。

調べた結果、日本は年金や医療などの社会保障に約四割から五割を使っているということがわかった。次に、インフラ整備や公共施設の運営などの行政運営、防衛や外交には約二割から三割が割り当てられている。学校や子育て支援には約一割程度、災害対策や環境保護には残りの部分が充てられている。

これらの支出はすべて、必要な経費と考える。必要なときにすぐ救急車が到着し、図書館などの公共施設が利用でき、道路が整備されていること、そして十分な教育を受けられることは、すべて税金のおかげなのだ。税金のおかげでこのように恵まれているのだ。

しかしながら、消費税がすべて廃止、もしくは減税が行われた場合、この状況はどう変わるのだろうか。

現在の日本では、消費税が税收のうちの約三割を占めている。

ただ、もし消費税の三割がなくなると、どれほどの影響が生じるのか計り知れない。危険なときに救急車が来なくなり、公共施設も閉鎖され、道路もガタガタになり、十分な教育も受けられなくなる可能性があるのだ。

今、当たり前に見えるこの景色も、少しずつ崩れ、廃れていくことになるのではないだろうか。もちろん、他の税收からの割り当てもあり、そこまで大きな問題にはならないかもしれないが、今のような状態を維持するのは難しいのではないか、とも感じている。もしそうなつてしまった場合を考えると恐ろしい気持ちになる。

普段は消費税十パーセントは高いと感じていたが、これを知つてからは意外に適正であつたのかもしれないと思うようになった。今後、より良い生活を送るためにも、税金はしっかりと納めるべきだと考えている。最初にあつたように、消費税が完全になくなるのは良くないかもしれないが、少し減税することに関しては、もつと考えて対策を取つた上で良い方向に傾く話でもあると思う。

税金は私たちの生活に直結しているので、しっかりと考えや学びを深めたい。今はまだ納めていない所得税などを納める際にはこうしたことを思い出しながら、税金の意味を理解した上で納めていきたいと思う。